

通信

～潟の歴史を未来につなぐ～

2019/05/28



潟さべり

第4号

八郎潟・八郎湖学研究会 発行

春の八郎湖



ヨシに付着した魚の卵 4/29

魚類の写真は杉山先生より
提供していただきました



付着した発眼卵 5/7



ギブナの稚魚



田植え時期の八郎湖 05/22 撮影

(植生再生地点より森山を臨む)

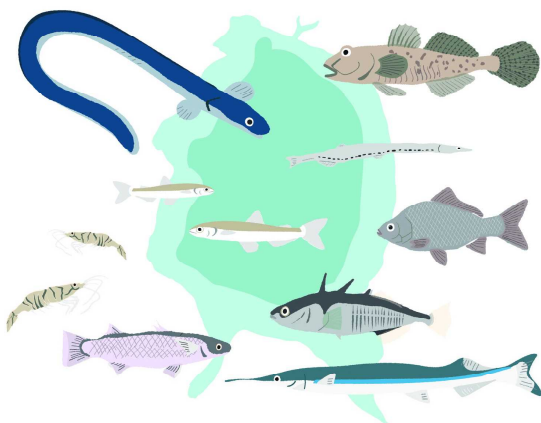
速報！ 本会より待望の叢書第1号が出版されました

八郎潟・八郎湖学叢書①

八郎潟・八郎湖の魚

干拓から60年、何が起きたのか

杉山 秀樹



さきがけブックレット

この度、さきがけブックレットより、干拓前から干拓後まで確認されたすべての魚介類 130 種を紹介した初めての図鑑「八郎潟・八郎湖の魚：干拓から 60 年、何が起きたのか」が出版されました。この本は本会が企画した「八郎潟・八郎湖学叢書」の記念すべき第 1 号でもあります。著者は本会幹事の杉山秀樹先生。八郎潟・八郎湖の魚類研究の第一人者です。

本書の魅力は 130 種の魚たちがひとつひとつカラー写真と簡潔な文章で紹介されている点です。単なる魚類図鑑ではなく、その魚がいつどこにいたのか、今はどうなっているのかという視点から書かれています。

また、興味深い魚（コイ、ウナギ、ブラックバスなど）の話、絶滅した魚、菅江真澄が見た魚、潟の食文化などの文章も珍しい話ばかりで興味津津です。巻末には八郎潟・八郎湖の魚の詳細なリスト、参考文献と索引まで完備されています。潟の魚を知るための図鑑、気軽な読み物、研究資料としても活用できます。1300 円(税別)、お求めは書店かインターネットで。

記念講演会について

去る平成31年3月10日、八郎潟町えきまえ交流館「はちパル」において、平成30年度の総会と記念講演会を行いました。

記念講演会は、かつて水質悪化に悩まされていた日本最大の湖・琵琶湖の長年の取り組みが、私たちの八郎湖のお手本になるという観点から企画したものです。

講師には総合地球環境学研究所（京都市）准教授の奥田昇先生をお招きし、「琵琶湖の流域と地域の問題を解決する取り組み」と題して、ご講演をいただきました。

奥田先生は「生物多様性が駆動する栄養循環と流域圏社会—生態システムの健全性」についての研究プロジェクトリーダーをなさっており、特に琵琶湖の生態系について長年精力的に研究されている方です。



講演では、学問的分野の枠を超えたアプローチによる様々な環境問題解決への実践について、詳しくお話ししてくださいました。

内容は難解な部分もありましたが、本研究会事務局の八柳が印象的に感じたことをいくつかご紹介いたします。

「水質改善は手段であって目的ではない」

かつて深刻な水質悪化に直面していた琵琶湖がよみがえりつつある現状と、そこに至るまでの地道な地域住民との連携についてのお話は大変興味深いものでした。中でも、「水質改善は手段であって目的ではない」という言葉は大変印象的でした。もちろん水質改善は

大事な目標であるものの、それはゴールではなく、湖沼やそこに流入する河川まで含めた地域全体の将来的な在り方を見据えて活動を行う必要があるということを知りました。

そのためには流入河川の上流部と中・下流部に暮らす地域住民が互いに連携し、それぞれがまずはできるところから環境保全に取り組むという、「流域ガバナンス」という地域の捉え方が重要であることも分かりました。

流域ガバナンスとは？

問題解決のアプローチ

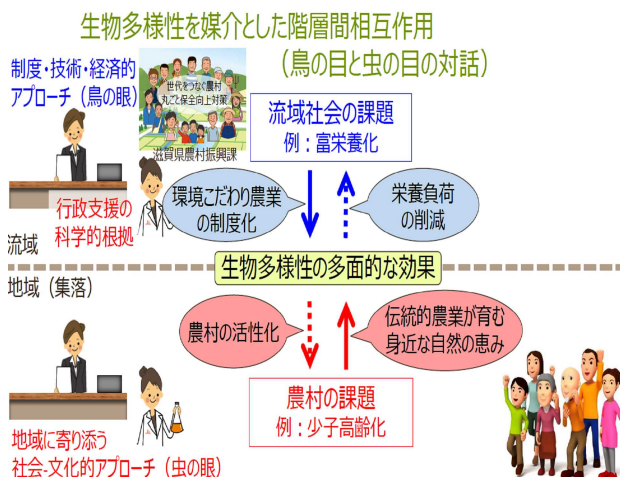
・流域管理と流域ガバナンスはどこが違う？

	科学的管理	順応的ガバナンス
状況の認識	還元主義的 量的 曖昧さのない知識	文脈依存的 質的 不確実な知識
計画の策定	科学知に基づく問題設定 単一の目標（一元的）	価値・文脈に基づく問題設定 複数の目標（多元的）
決定のしくみ	トップダウン型 中央集権的 専門家のみで閉鎖的	ボトムアップ型 権力分散的 多様な主体に対して開放的
解決のプロセス	技術・制度による解決 少数の選択肢 硬直的	地域知と科学知による解決 多様な選択肢 可塑的

「鳥の目」と「虫の目」の対話

とにかく環境浄化は行政の仕事と思われがちですが、「制度・技術・経済」という行政側からアプローチする「鳥の目」と、「社会・文化」といった地域で暮らす住民側からのアプローチである「虫の目」が互いに連携することが課題解決のポイントであるという指摘も心に残りました。

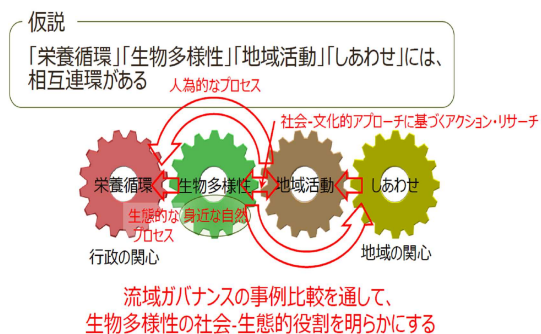
琵琶湖ではそこで生息する多様な生き物たちが、共存できる環境作りを目指して「鳥の目」と「虫の目」が連携した実践の紹介がありました。



危機感をもつ人々が各々の立場で活動することは確かに意義深いものの、「鳥の目」と「虫の目」が課題を共有し、それぞれが連携しながら無理なくできる範囲で実践を継続していくことこそ、今後、本研究会が目指していくべき方向であると感じました。

「しあわせ」をキーワードにした地域づくり

流域の健全性に必要な4つの歯車



行政と地域住民の連携は環境問題にとどまらず、地域の未来を見据えた地域問題の一体的解決に欠かせないということは当然のことですが、そのためのキーワードとして「しあわせ」が提示されたことも新鮮に感じました。

地域に住む人々が幸せを感じながら日々の生活を営むことの延長線上に、様々な地域問題の解決のヒントがあるとすれば、まずは住民が幸せを実感できる地域活動を活発にしていけることが起点になるのだと示唆をいただきました。自分たちの地域に誇りをもち、よりよく生活していくために、まずは地域が一丸となって「しあわせ」を感じられるような地道な活動を継続していくことが大切なのだと思います。

そして、その活動がやがて地域づくりとして機能し、行政や研究機関とも連携した、より広域的な取組につながっていくのだと教えていただいたように思います。

地域に寄り添うアクションリサーチ（社会・文化的アプローチ）



いずれにしても、その地域の未来は、今そこで暮らす人々に委ねられているという当然の事実を改めて痛感した講演会となりました。

人と自然のつながりの再構築

人といきものにぎわいの復活

・地域知と科学知の交流による信頼関係の構築

2019年2月 「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」交付金制度へ申請準備開始



古写真を用いたワークショップを計画中
・地域の伝統・文化・景観の継承



なお、講演会には多忙な中、八郎潟町長の畠山菊夫様にご参加いただき、最後まで熱心に講演に耳を傾けてくださったことに深く感謝申し上げます。

◇ 総会の報告

奥田先生の講演会に引き続き、同会場で本年度の総会を行いました。

天野副会長の「開会のことば」のあと、谷口会長よりあいさつがあり、本会の設立から丸一年の歩みとその成果について概要が報告されました。

その後、谷口会長を議長として議案審議に入りました。議案審議では、始めに事務局より前年度の事業報告と会計報告がなされ、全会一致で承認されました。続いて次年度の事業計画と予算案について審議が行われました。



新年度事業については提案や要望も出され、役員会で具体化することとしました。今後も会員確保に力を入れることを確認し、天野副会長の「閉会のことば」で総会を終えました。

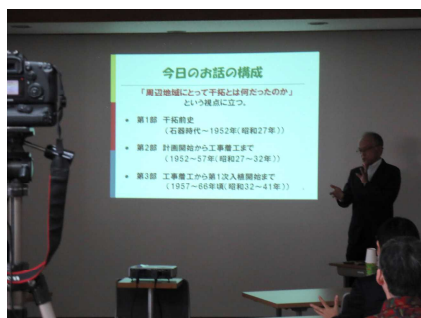
続報 現地セミナー

「本当は知らない八郎潟干拓の話」

前号でもご紹介しましたが、現地セミナーが昨年10月27日・28日の2日間にわたって実施されました。1日目は五城目町町民センターで本会の谷口会長が「本当は知らない八郎潟干拓の話」と題して講演をしました。

「埋もれた資料から解き明かす」という副題のとおり、歴史的な事実が丹念に掘り起こされ、八郎潟と地域との歴史的な繋がりが、干拓という視点から明らかにされました。

八郎潟干拓が明治時代から構想されていたことや戦後本格的に事業化されていく過程を知ること、先人たちの様々な思いに触れるとともに、干拓事業を改めて見直す貴重な機会となりました。



この講演内容は映像記録として本会に残したほか、今年の秋には「八郎潟・八郎湖学叢書」

の第二弾として出版されますので、楽しみにお待ちください。

セミナー2日目は「地先干拓地」を中心に八郎潟町から男鹿市船越まで、車に分乗して、八郎潟の旧湖岸の跡をたどりました。

当日は10月の末とあって少し肌寒い天候でしたが、八郎潟町一日市の愛宕神社を皮切りに、馬場目川の河口や旧八郎潟南端に位置する潟上市新関地区、そして塩口地区のヨシ原、ボラ塚などを巡り、最終地点の防潮水門まで見学しました。午前中だけの短い時間でしたが往時の八郎潟を偲ぶことができました。



◇ 今年度の事業予定 ◇

- 1 現地調査や研究会などの開催
前年度のようなイベントを計画中です
- 2 現地セミナー(1泊2日)の開催
八郎太郎伝説をテーマに(詳細は検討中)
- 3 「潟さべり」(フリートークの会)の開催
会員からの要望をもとに企画します
- 4 書籍などの製作・出版
叢書第2号「八郎潟はなぜ干拓されたのか」は9月頃出版予定です
- 5 新しい研究や活動の創出
役員会で検討中です
- 6 「八郎潟・八郎湖アーカイブ」の充実
新著の受入と埋もれている資料の掘り起こし
- 7 研究成果の事業化への模索
収益性を視野に入れたプログラムづくり
- 8 通信の発行(年4回)とホームページの充実

会員を募集しています

会員には通信を定期的にお届けするほか、各種イベントの案内、イベント参加費の軽減などの特典があります。

○正会員……………3,000円

○団体会員……………5,000円

○賛助会員…10,000円

(会費はいずれも年会費です)

◎申込について

郵便局と秋田銀行に振込先口を用意しています。詳しくは事務局までメール等でお問い合わせください。

～八郎潟・八郎湖に関心のある皆さん
ぜひ仲間に加わってください～

八郎潟・八郎湖学研究会

事務局：秋田県立大学 環境社会学研究室内
〒010-0195 秋田市下新城中野字街道端西241-438
TEL・FAX：018-874-8686(NPO法人はちろうプロジェクト内)
E-MAIL：88gaku@gmail.com
URL：http://hachiro865.net/hachirores.html